

(別紙様式)

令和2年4月9日

徳島大学長 殿

歯学部長

宮本 洋二〔公印省略〕

令和元年度インセンティブ経費活用状況報告書

予算執行状況	予算額	執行額	差引額
	5,000 千円	5,000 千円	0 千円

【実施状況】

本学部に予算措置されたインセンティブ経費 5,000 千円については、学生の教育環境・設備等の充実化をはかるため、授業や講演会で使用頻度が高く機器の老朽化が進んでいた大講義室の音響設備の更新を実施した。

また、学生が使用する実習室や技工室の機器の修理、更新を行い、実習環境を整備した。

【成果・効果】

大講義室の音響設備を更新したことで、授業や講演時における機器トラブルがなくなり、教員及び学生も集中して授業に取り組むことができる。また、学会等へ臨時貸付を行っており、これらについても滞りなく実施することができる。

また、実習室や技工室の機器の修理、更新を行ったことで、学生がより良い環境で実習を行うことが可能となった。

令和2年4月28日

徳島大学長 殿

薬学部長
佐野 茂 樹

令和元年度インセンティブ経費活用状況報告書

予算執行状況	予算額	執行額	差引額
		5,000 千円	5,000 千円

【実施状況】

・第1・第3講義室視聴覚システム更新

薬学部は講義室を4部屋保有しており、各講義室の視聴覚システムはいずれも導入から約10年が経過している。導入から10年を経過し設備としての老朽化が著しい講義室の視聴覚システムの更新は学生の利便性の観点から緊急性が高く、必要不可欠な事業であるため、このたび視聴覚システムの更新を実施した（うち当該経費で第1・第3講義室視聴覚システムの更新の一部に充てた）。

・薬学部実験研究棟2階第1講義室・階段及び医薬創製教育研究棟階段他照明LED化工事

薬学部の実験研究棟・医薬創製教育研究棟における照明を旧来の蛍光灯からLED照明に更新することで、電気代を削減でき、学生サービスのための教育費等を確保することが可能となり、本学の教育研究活動の推進に大きく寄与する事となる。そのため、このたび、多くの学生が利用する講義室及び階段の照明のLED化を行った。

【成果・効果】

・第1・第3講義室視聴覚システム更新

第1・第3講義室視聴覚システムを更新した結果、学生の利便性、教育・研究の質の向上が期待される。また、講義室は外部機関への有償貸付に利用される事もあるため、当該更新事業は貸付施設として付加価値が高まり、貸付施設としての活用の増加が見込まれる。

・薬学部実験研究棟2階第1講義室・階段及び医薬創製教育研究棟階段他照明LED化工事

薬学部講義室等の照明のLED化を行った結果、教育・研究環境が改善され、電気代の削減により、今後、本学の教育研究活動の推進につながることが期待される。

(別紙様式)

令和2年3月30日

徳島大学長 殿

社会産業理工学研究部長
河村 保彦

令和元年度インセンティブ経費活用状況報告書

予算執行状況	予算額	執行額	差引額
	2,500千円	2,500千円	0千円

【実施状況】

本研究部に予算措置されたインセンティブ経費について、令和元年度は研究機器の共用利用促進、研究活動の活性化、分野融合の更なる推進を目的として、共用性の高い研究機器に対する修理費等や、その他研究部として必要性が高い事業へ充当することとし、3学域の教職員に文系・理系を問わず事業の募集を行った。募集の結果11件の申請があり、その後適正な審査を行い、振動試験機の新規導入等、5件を採択・実施した。

【成果・効果】

今回の予算措置により、共用性の高い研究機器のメンテナンス・修理が実施でき、運用効率が向上、研究の停滞を防ぐことができた。また装置寿命も延長することができ、当初の目的であった研究機器の共用利用促進等の更なる推進を図ることが可能となった。

さらに、研究部において必要性が高いと認められた新規事業である、振動試験機の新規導入、学内共同研究グループへの研究支援を実施することで、教育研究機能の更なる向上を図ることができた。

(別紙様式)

令和2年4月20日

徳島大学長 殿

医歯薬学研究部長
苛原 稔 [公印省略]

令和元年度インセンティブ経費活用状況報告書

予算執行状況	予算額	執行額	差引額
	1,500 千円	1,500 千円	0 千円

【実施状況】

研究部における研究活動を支える学部学生の実習環境等の整備充実を実施した。

医学部医学科において4～6年生が実習で使用するPHSを20台購入した。

また、医科栄養学科において2～3年生が主に使用する給食実習用のアルミ鍋等を購入し、フライヤーについては修理を行った。

さらに、保健学科において移動式の大型液晶テレビを2台購入した。

【成果・効果】

PHSは学生が実習中に教職員と連絡を取るために必須である。老朽化により通話ができない等の不調があったが、新規購入したことでより快適な実習環境を整えることができた。

実験や実習等で使用する調理器具も老朽化がひどく、中でもビッグターナーとフライヤーはかなり傷んでいたため使用も難しい状況であったが、購入及び修理を行い、より充実した実験・実習環境を整えることができた。

移動式の大型液晶テレビについては、ノートパソコンと接続し、プロジェクターによる投影よりも鮮明な画像を講義資料として学生に提示できるようになった。遠隔授業における資料表示装置としても活用している。

(別紙様式)

令和2年3月31日

徳島大学長 殿

先端酵素学研究所
所長事務取扱 佐々木 卓也

令和元年度インセンティブ経費活用状況報告書

予算執行状況	予算額	執行額	差引額
	1,000 千円	1,000 千円	0 千円

【実施状況】

研究所施設の紹介動画を作成し、ホームページのトップ画面に掲載した。目的のページを閲覧するだけでなく、研究所の魅力を発信できるページ作成に務めた。

また、本動画については、研究所主催のシンポジウム等の開始前や講演の合間に流せるようにしており、広く研究所のPRに活用する。

【成果・効果】

これまで、研究所ホームページのトップ画面は、研究所のロゴを掲載しているだけであったが、動画掲載により、本研究所自体により興味を持ってもらえるような目を惹くページとなった。

今回撮影した動画は、各研究者のPR動画作成等にも活用できるため、今後も活発な利用が望め、非常に有意義な成果物となった。

ホームページトップ画面



●先端酵素学研究所ホームページ

<http://www.iams.tokushima-u.ac.jp/>

令和2年4月7日

徳島大学長 殿

研究支援・産官学連携センター長

吉田 和文

令和元年度インセンティブ経費活用状況報告書

予算執行状況	予算額	執行額	差引額
	2,000 千円	2,000 千円	0 千円

【実施状況】

研究支援・産官学連携センターは、徳島大学の研究力の向上とその研究成果の地域社会への還元に貢献することを大きな目的とし、学内全ての研究者への支援を行っている。また、役員との調整や会議への参加も多く、新蔵地区へ出向くことも多い。

2019 年度より新蔵地区及び蔵本地区にも当センターの機能が移行され、センター機能が3拠点に分散されたため、移動の機会も多くなった。各拠点からの移動には、昨年購入した専有公用車及び共用公用車、タクシーを利用しているが、常三島地区では他部局の共有公用車の利用率も高く、急な用務などの場合に利用できず、やむを得ずタクシーを利用することが多くなっている。

そこで、各拠点間の移動の効率化、コスト削減のため、研究支援・産官学連携センターが専有で使用できる自動車として、搭乗者の危険を未然に防ぎ安全性を確保できる安全装備を有した車両を1台購入した。

【成果・効果】

購入した車両の納品が2020年3月末となり、自動車保険が2020年4月1日からの契約となっているため、2019年度中の使用実績はないが、長期的視点で考えれば、タクシーを利用することに比べコストの削減になり、各拠点間の移動も効率的になると考える。

令和2年4月30日

徳島大学長 殿

環境防災研究センター長
中野 晋

令和元年度インセンティブ経費活用状況報告書

予算執行状況	予算額	執行額	差引額
	1,000 千円	1,000 千円	0 千円

【実施状況】

令和元年10月12日～13日に発生した令和元年台風19号（東日本台風）及び、千葉を中心に被害をもたらした令和元年10月25日の豪雨災害に対して、長野県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県のみならず、1都4県に災害調査員を派遣した。

本事業による調査期間は10月20日～1月19日である。災害発生から約1カ月の初動調査の内容について調査員9名から11月29日に「令和元年10月豪雨災害調査報告会」として研究者、防災関係者、市民を対象に報告した。

1月19日以降も被災地でのヒアリング調査、洪水氾濫再現解析等を継続し、本災害の調査結果のとりまとめを行っており、最終調査報告会については新型コロナウイルスの終息を待って実施予定である。

インセンティブ経費は調査旅費、レンタカーの借用料、調査結果の解析や取りまとめで必要となったパソコンや消耗品費等に充当した。

【成果・効果】

本事業を通して、得られた成果や効果は下記の通りである。

- 1) 調査報告会の開催
11月29日に開催した「令和元年10月豪雨災害調査報告会」では防災関係者、マスコミ、研究者、住民等56名が参加した。
- 2) メディアでの報道
豪雨災害調査報告会の内容について、NHK、四国放送、徳島新聞、読売新聞等で報道された。
- 3) テレビやラジオでの解説
センター長が四国放送フォーカス徳島、FMとくしまMorningCompassの番組に出演し、本災害の実態について解説した。
- 4) 論文等での報告
木学会四国支部技術研究発表会で2件、同自然災害フォーラムで1件、日本地域福祉学会年会で1件、発表済または発表予定である他、土木学会論文集に3報投稿中である。
- 5) イベント等での活用
令和2年8月から開催予定のとくしま大学防災展（ガレリア新蔵）で調査結果を展示する他、徳島県と共同で開催予定の防災・減災キャラバン（洪水対策編）でも活用する。また、最終報告会についても開催準備中となっている。

令和2年3月25日

徳島大学長 殿

産業院長
森 松 文 毅

令和元年度インセンティブ経費活用状況報告書

予算執行状況	予算額	執行額	差引額
		1,000 千円	1,000 千円

【実施状況】

大学産業院では、大学の研究成果の事業化・社会実装化の取組をさらに加速させるため、今年度、集中的に伴走支援する教員を2名追加し、これに伴いコーディネータも増員した。

また、起業意識・ビジネスマインドをもった学生・教職員の育成、アントレプレナーシップ教育の推進やセミナー等の啓発活動を目的とした「教育・経営支援部門」を設置し、新規産業を創出するための活動に取り組んできた。

インセンティブ経費は、これらの取組を周知するためのパンフレット作成費に活用した。

【成果・効果】

パンフレットは大学産業院の活動をより広く認知してもらうために利用している。実際にコーディネータ等支援する教職員が、来学した学外企業の方に渡したり、企業等訪問の際に渡したりすることにより、徐々に認知度が高まってきている。



令和2年4月10日

徳島大学長 殿

AWAサポートセンター長
葉久真理【公印省略】

令和元年度インセンティブ経費活用状況報告書

予算執行状況	予算額	執行額	差引額
	1,000 千円	1,000 千円	0 千円

【実施状況】

1. 蔵本地区女性職員休憩室 Rococo の環境整備を行った。
 - ① 乳幼児保育実施時の安全性向上のため、和室格子の改修工事を行った。
 - ② 老朽化していた授乳室のベビー休憩用いすを買い替えた。
 - ③ 授乳室の照明器具を取り換えた。
2. 常三島地区女性職員休憩室 RococoⅡ の環境整備を行った。
 - ① 利用者の意見等を踏まえ、女性職員の休憩など体調管理に資するソファ、空気清浄機ファンヒーター、テーブルなど必要な物品を購入し、整備した。

【成果・効果】

1. 蔵本地区女性職員休憩室の利用者に、より安心してもらえる環境が整った。また、授乳室の利用者に喜んでもらうことができた。
2. 購入が年度末であったため、利用者の増加等、顕著な成果・効果は表れていないが、利用者の意見等を踏まえて優先順位の高いものから整備したため、有効な環境整備ができたと思われる。